

# 環境大レポート

第44号

Mar. 2026

K A N K Y O D A I R E P O R T



大学祭実行委員会の皆さん



環境学部「福祉住環境計画」の授業



竹内ゼミ シカじゃぶ井販売  
(市内スーパーにて)



河北省青少年事業団の訪問



環謝祭



環境学部 卒業論文発表会にて(撮影:環境学部 教授 中治弘行)



カッセル大学での留学体験談発表



下境ゼミ 複数資格を取得



堀ゼミ 3年生の皆さん



学生EMS委員会 エコプロ出展  
(東京ビッグサイトにて)



英語村ハロウィン



被害者支援活動に対する警察からの感謝状授与

特集

## 前進!! — はじめての挑戦、続ける挑戦 —

**キャンパスピックアップ** 4 5  
お別れの挨拶 ウクライナからの外国人研究者メドベージェワさん  
文部科学省「全国学生調査」ポジティブリストにランクイン  
第22回環大コンペが開催されました  
2026(令和8)年度からの授業時間変更(100分授業導入)のお知らせ

**研究紹介** 6  
数学における研究の進め方の一例 人間形成教育センター 門田 慎也 講師

**ESSAY**  
学生の挑戦に関わる仕事 経営学部 中島 智子 准教授

**国際交流** 7  
本学の国際交流プログラムを紹介します!

**就職支援** 8  
2025年度 就職結果速報(内定者インタビュー)  
合同説明会を行いました!  
卒業生からのメッセージ

**クラブ&サークル活動・資格取得** 9  
バスケットボール部・落語研究会 火曜日/資格取得

**Pick Up ゼミ紹介** 10  
竹内ゼミ

**環謝祭**  
第25回環謝祭を開催しました

**表彰・採択関係**  
第33回地球環境シンポジウムで優秀ポスター賞を受賞  
第27回IEEE広島支部学生シンポジウムにてHISS優秀プレゼンテーション賞を受賞

**キャンパスニュース** 11  
TUESレポートより

**お知らせ** 12  
PRコーナー/2025年度 学部・大学院学位授与式/  
2026年度 前期開始日程/授業料の納入について/決算報告

# Challenge 1 フィンランドとの相互派遣事業に参加!

今年度、本学では、鳥取県が実施する県内の学生(高等教育機関)とフィンランドとの学生相互派遣事業\*1に連携し、脱炭素及びSDGsにおける先進自治体であるフィンランド共和国トゥルク市に9月22日から9月27日の間、本学から教職員2名と学生2名を派遣しました。また、12月1日から12月3日の間、トゥルク市から研究者や学生たちが鳥取県へ派遣され、鳥取県内における脱炭素に関連する施設や取り組みを行っている企業等の視察の他、本学において脱炭素に向けた方策等について県内の大学生と意見交換を行いました。今年、事業に参加した学生に質問してみました!

**Q. このプログラムに参加した理由は?**

昨年度の受け入れの際のプログラムに参加し、自身の英語や留学経験なども活かせる事業だなと思い、来年は自分が主体となって取り組んでいきたいと思ったため。

**Q. フィンランドではどのようなことをしてきましたか?**

現地の学生と共に、脱炭素社会の実現というテーマに関する企業や大学、施設等を見学し、テーマに沿ってプログラムを行いました。それぞれ異なった専門を持つ学生同士が集まり、グループごとに分かれて、ディスカッションやワークを通して交流を深めていきました。最終日には今回の研修を通して学んだことについて、各分野からの意見をまとめて制作物を作成し、関係者の前でプレゼンテーションを行いました。

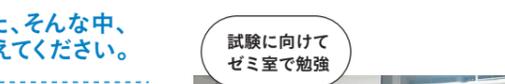
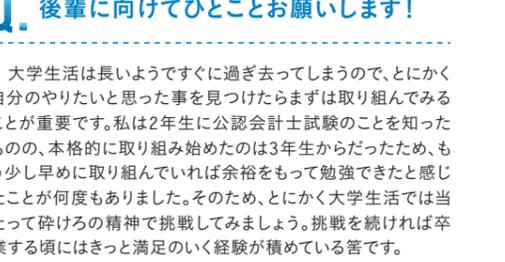
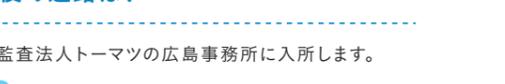
**Q. 現地でのエピソード・印象に残っていることを教えてください**

現地で印象に残っていることは、交流した学生やお話を伺った方たちだけでなく、フィンランドで生活している人たちの環境への意識が高いと感じました。都市の中に公園(緑地)を取り入れていたことや、幼少期からの学校でのフィールドワーク等をはじめ、自然に親しい生活がその意識を育むのではないかと感じました。事業に関しても形態を問わず持続可能性に関して配慮がされているなど、潜在的な意識として存在することも印象的でした。

**Q. この経験を通じて、自分の中でどのような変化を感じていますか?**

プログラムの中で自身の英語能力の不足を感じた場面も多く、現状で満足するのではなく向上心を持ち学び続けていかなければいけないことに気づき、派遣後も意欲的に英語学習に取り組んでいます。他にも交流した学生の中には留学生や、一度社会に出てから学び直して大学にいる人々といった人生の先輩とも交流することができ、学ぶ・行動するということに対する姿勢や価値観などが大きく変化したなと感じています。

\*1フィンランドとの学生相互派遣事業  
県内学生が国内外の先進自治体の若者との意見交換等を通じて地域で地球温暖化対策や脱炭素等に関する見識を深めながら、県の課題への提案や様々な啓発活動、情報発信を行い、脱炭素社会や持続可能な社会の実現に向けた気運の醸成を図ることを目的に実施する、脱炭素及びSDGsにおける先進自治体であるフィンランド共和国トゥルク市との学生相互派遣事業。



# 特集 前進!! はじめての挑戦、続ける挑戦

# Challenge 3 カッセル大学(ドイツ)で語学研修をしてきました!

本学では、文化交流や異文化体験を目的とする「学生交流事業」、語学のスキルアップを目的とする「語学研修」、長期で実践的に学びたい人向けの「交換留学」など、多様な国際交流プログラムを用意しています。プログラムのうちの一つ、「カッセル大学」での語学研修は、ドイツのツーリズム、産業、再生エネルギーなどのテーマについて、レクチャーやフィールド学習を通して経営と環境の両面から英語で学ぶプログラムです。\*今年、実際に現地に行ってきた学生に質問してみました! ※英語中級レベル(CEFR B1)程度から参加可。

**Q. 留学先と留学した時期や期間を教えてください**

ドイツのカッセル大学に2025年8月21日から9月16日まで留学しました。

**Q. 留学に挑戦しようと思った理由は?**

英語力を高め、外国の方と積極的にコミュニケーションを取りたいと思ったことがきっかけです。また、他国の学びや文化、街づくりを自分の目で見て体験し、ホームステイを通して異文化理解を深めながら、自分自身も成長したいと考え、留学に挑戦しました。



**Q. 現地でのエピソード・印象に残っていることを教えてください**

留学先では多くのトラブルを経験しました。渡航1週目にスマートフォンを壊してしまったり、財布やパスポートを紛失したり、けがで病院に行くこともありました。しかしその度に、他の留学生やホストファミリーが親身に助けられ、人の温かさや支え合いの大切さを強く実感した、忘れられない経験です。

**Q. 留学してみて、自分の中でどのような変化を感じていますか?**

留学を通して、特に性格面で大きな変化を感じています。帰国後、友人や大学の先生から「明るくなった」「雰囲気変わった」と言われることが増えました。現地で多くのトラブルを乗り越えたことで「何とかなる」という前向きな姿勢が身につく、ホストファミリーや留学生と積極的に交流した経験が、今の自分につながっていると感じています。



# Challenge 4 EMS委員会によるハロパックプロジェクト!

学生EMS委員会は大学の環境マネジメントシステム(EMS)の運用の一翼を担うために設立された学生組織です。鳥取砂丘を始めとする学外の清掃活動、環境意識を向上させるためのイベント開催など、環境問題を解決するために企業や団体と連携して様々な取組を行っています。このたび企業と連携してハロパック※をデザインしたオリジナル商品を開発したので、担当した学生の一人に活動の様子を尋ねてみました!

**いま、一番欲しいものは? 時間!!!**

**Q. この取り組みを始めた理由・きっかけは?**

環謝祭で使用されている模擬店の容器がプラスチック製であることに課題を感じ、環境負荷を減らすため、より環境に配慮した素材の容器へ変更できないかと思ったからです。

**Q. どのような思いでこの容器を開発したのですか?**

年代を問わず多くの人が楽しみながら環境問題について考えるきっかけを作りたいと考え、模擬店やスーパーなどでも使用できる容器に環境に関する「間違い探し」を掲載しました。食事の時間を通して自然と環境への関心を高め、子どもから大人まで気軽に参加できる工夫を取り入れることで、環境問題を身近なものとして捉えてもらうことを目指しました。



**Q. この取り組みに参加してよかったところ、楽しかったところを教えてください。**

企業の方々と直接関わる機会を通して、社会の仕組みや仕事の現場について実践的に学ぶことができ、とても有意義で楽しい経験でした。実際に話を聞く中で、これまで自分には思いつかなかった視点や発想に触れることができ、新たな気づきが多かったです。また、初めて知る情報や考え方に会うことで、自分の視野が広がったと感じています。



# Challenge 2 公認会計士試験に挑み、現役合格!



**今岡さんの挑戦のあゆみ**

- 2年次から公認会計士を目指し始め...
- 2024年5月(3年次) 公認会計士 短答式試験に合格
- 2024年6月(3年次) 日商簿記検定1級に合格
- 2025年11月(4年次) 公認会計士 論文式試験で最終合格(合格率7.4%の狭き門を突破!)

本学経営学部4年 今岡さんが、令和7年度公認会計士試験に合格しました。本学で在学中の合格は令和4年、令和6年に続き、3人目の快挙です。挑戦し続けて掴んだ合格。率直な気持ちを尋ねてみました!

**Q. 合格を知ったときの気持ちを教えてください**

自分が受かっている可能性が十分にあると思っていながらも、本当に自分が受かったのかと最初は思いました。その後何回か自分の番号を確認して受かった事に対して安心しました。

**Q. 公認会計士試験を目指したきっかけは?**

大学2年生の頃に日商簿記検定1級を取ろうと勉強していた最中、大学の教授から公認会計士試験の事を聞き、大学在学中の目標として公認会計士試験合格を目指そうと思いました。

**Q. 苦しかったときはありましたか? また、そんな中、ずっと挑戦し続けられた秘訣を教えてください。**

自分にとって1回目の短答式試験の際に本番において上手く実力が発揮できず落ちてしまった時や、2回目の論文式試験の勉強において中々点数が上がらなかった時が個人的に苦しかったです。ただ、一度決めた目標に対して積み重ねてきた努力を無駄にしたいと思わず、何となくでも成し遂げようとする気持ちを持ち続けることが挑戦を続けられた秘訣です。



**Q. 卒業後の進路は?**

有限責任監査法人トーマツの広島事務所に入所します。

**Q. 後輩に向けてひとことお願いします!**

大学生活は長いようですぐに過ぎ去ってしまうので、とにかく自分のやりたいと思った事を見つけたらまずは取り組んでみる事が重要です。私は2年生に公認会計士試験のことを知ったものの、本格的に取り組み始めたのは3年生からだったため、もう少し早めに取り組んでいれば余裕をもって勉強できたと感じたことが何度もありました。そのため、とにかく大学生活では当たって砕けろの精神で挑戦してみましょう。挑戦を続ければ卒業する頃にはきっと満足いく経験が積んでいる筈です。



## 本学での研究期間を終え、母国で新たな一歩へ

2022年6月より本学が受け入れてきたユリア・メドページェワさんが、2025年12月にウクライナへ帰国しました。メドページェワさんは、ウクライナ国立科学センターの博士課程に在籍中、ロシアによる武力侵攻が始まった影響で安全な研究環境を確保できなくなりました。その際、本学が外国人研究者として受け入れ、環境学部 角野真信 准教授のもとで博士論文研究を継続してきました。

約3年半にわたる鳥取での研究期間を経て、母国で専門を活かした就職先が決まり、新たな道へ進まれます。本学で培った経験を生かし、今後ますますご活躍されることをお祈りしています。Успіхів!(ご成功を!)

### ✉ メドページェワさんからのメッセージを紹介します。

I would like to express my sincere gratitude to the President of Tottori University of Environmental Studies, as well as to all faculty, staff, and students.

In the spring of 2022, following the outbreak of the war, Tottori University of Environmental Studies joined higher education institutions in Japan and around the world in accepting Ukrainian students and young scientists, enabling many of us to continue our research and studies.

During my time in Japan, I successfully passed the qualification exam for a PhD program in Ukraine. Under the supervision of Professor Kadono, I worked in a well-equipped soil laboratory, conducting physicochemical experiments, such as measuring heavy metals in soils, analyzing soil composition and structure, and assessing soil acidity.

I also participated in Japanese academic conferences and Japan-Ukraine projects addressing agricultural development and the food crisis caused by the Russian-Ukrainian war. This year, Professor Kadono and I worked on topics including environmental modeling, satellite spatial data, and soil carbon cycles.

In the autumn, I was selected from over 250 applicants worldwide for the "Create Ukraine" program, which supports young professionals returning to Ukraine to work in public administration. I am confident that my experience in Japan will contribute to my future work at the Ministry of Economy, Environment and Agriculture of Ukraine.

Once again, I sincerely thank Tottori University of Environmental Studies and hope that scientific cooperation between Japan and Ukraine will continue to grow.

### (和訳)

公立鳥取環境大学の学長をはじめ、すべての教職員ならびに学生の皆さまに、心より感謝申し上げます。

2022年春、戦争の勃発を受けて、公立鳥取環境大学は日本国内外の多くの高等教育機関とともに、ウクライナの学生や若手研究者を受け入れ、私たちが研究や学業を継続する機会を与えてくださいました。



角野准教授とのラジオ出演

日本滞在中、私はウクライナの博士課程進学資格試験に合格しました。また、角野准教授のご指導のもと、設備の整った土壌研究室において、土壌中の重金属測定、土壌の組成・構造分析、酸性度評価などの物理化学的実験に携わる機会を得ました。

さらに、日本の学会や、ロシア・ウクライナ戦争に起因する食料危機や農業課題をテーマとした日・ウクライナ共同プロジェクトにも参加しました。今年は、環境モデリング、衛星空間データ、土壌中の炭素循環などの研究にも取り組みました。

秋には、世界250名以上の応募者の中から「Create Ukraine」プログラムに選出され、ウクライナに帰国して公共行政分野で働くこととなりました。日本で培った経験は、今後、ウクライナ経済・環境・農業省での業務に必ず生かされると確信しています。

改めて、公立鳥取環境大学の皆さまに深く感謝するとともに、日本とウクライナの学術交流が、これからもさらに発展していくことを願っております。



小林学長から激励の言葉を授けられるユリアさん

## Campus Topics 両学部とも全国上位15%以内 文部科学省「全国学生調査」ポジティブリストにランクイン

文部科学省が実施した「令和6年度 全国学生調査(第4回試行実施)」に基づくポジティブリストにおいて、本学は環境学部・経営学部ともに全国上位15%以内の評価を受けました。本学では引き続き、学生一人ひとりが成長を実感できる学びの充実に取り組んでいきます。

全国学生調査は、全国約540大学の学部2・4年生を対象に、授業方法や身についた力を学生自身の視点で評価する文部科学省の調査です。ポジティブリストは、その結果から学生の評価が高い全国上位15%以内の大学・学部をまとめたものです。

参考:「全国学生調査」について(文部科学省公式サイト)

環境学部	理学・工学・農学分野の152学部を対象	順位
⇒ 24問中、以下17項目が全国上位15%以内ランクイン		
ポジティブリストに掲載された設問		
文献・資料を収集・分析する力が身に付いた	1位	
人に分かりやすく話す力が身に付いた	1位	
他者と協働する力が身に付いた	1位	
幅広い知識、ものの見方が身に付いた	1位	
理解がしやすいように教え方が工夫されていた	2位	
論理的に文章を書く力が身に付いた	2位	
卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している	3位	
異なる文化に関する知識・理解が身に付いた	4位	
授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている	5位	
問題を見つけて解決方法を考える力が身に付いた	6位	
外国語を使う力が身に付いた	7位	
質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある	8位	
将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観が身に付いた	8位	
大学の学びによって成長を実感している	8位	
グループワークやディスカッションの機会がある	14位	
専門分野に関する知識・理解が身に付いた	16位	
主に英語で行われる授業の履修(語学科目を除く)	17位	

経営学部	社会分野の185学部を対象	順位
⇒ 24問中、以下17問が全国上位15%以内ランクイン		
ポジティブリストに掲載された設問		
論理的に文章を書く力が身に付いた	3位	
文献・資料を収集・分析する力が身に付いた	5位	
問題を見つけて解決方法を考える力が身に付いた	11位	
幅広い知識、ものの見方が身に付いた	11位	
授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている	11位	
主に英語で行われる授業の履修(語学科目を除く)	12位	
理解がしやすいように教え方が工夫されていた	14位	
ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある	15位	
人に分かりやすく話す力が身に付いた	16位	
他者と協働する力が身に付いた	16位	
将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観が身に付いた	21位	
課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される	22位	
専門分野に関する知識・理解が身に付いた	22位	
教職員が熱心に教育に取り組んでいる	22位	
外国語を使う力が身に付いた	26位	
卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している	26位	
大学の学びによって成長を実感している	28位	



## Campus Topics 第22回環大コンペが開催されました

2025年12月10日に第22回環大コンペの最終審査を本学で実施しました。

環大コンペは「公立鳥取環境大学を支援する会」主催のイベントで、大学生生活の向上と地域社会に貢献する企画を学内から募集し、優秀企画(団体)を表彰する伝統ある学内コンペです。今年度は5企画の応募があり、以下の通り入賞企画が決定しました。

最終審査では「鳥取の若者の居場所」、「多文化共生」など鳥取の地域課題について、学生の切り口から課題解決の提案がありました。審査後に行われた審査員と発表者の意見交換会では、これからの展望や、今回取り組んだ課題に気付いたきっかけについての発言があり、地域課題解決に向けた議論を深めました。



▲発表メンバーと審査員の集合写真



▲最優秀賞受賞「鳥取古着フリマフェス」発表の様子

▲第2位「とりかんと市」発表の様子

### 【最優秀賞】鳥取古着フリマフェス「鳥取古着フリマフェスの開催」

代表：経営学部 4年 櫻井 渉

最優秀賞を受賞した櫻井渉さん▶



### 【第2位】とりかんと市実行委員会「学生主催のフリーマーケット「とりかんと市」の開催・運営～持続可能な社会、ここから～」

代表：経営学部 2年 寺川 陽晴

### 【第3位】【ルーキー賞】にこいちご「イブンカ交流会」

代表：経営学部 1年 高橋 真咲

第3位・ルーキー賞を受賞したにこいちご▶



### 【第4位】生物部「とりまど」

代表：環境学部 4年 小川 理月

### 【第5位】駄菓子BAR「たまりば 鳥取の若者に新たな居場所を！」

代表：経営学部 4年 大村 康汰

## Campus Topics 2026(令和8)年度からの授業時間変更(100分授業導入)のお知らせ

この度、本学では教育改革の一環として、2026(令和8)年度から授業時間を現行の90分(半期15週・通年30週)から100分(半期14週・通年28週)に変更することを決定しました。

### 1. 変更の目的

- 授業時間が10分長くなることにより、事前準備や後片付け等を要する実験・実習・演習科目における実践時間の十分な確保が可能になります。また、アクティブ・ラーニングなど多様な学修方法を組み合わせる柔軟な授業の展開が可能となり、教育の質を高めることが期待されます。
- 半期15週から14週になることにより、祝日の授業実施を減らすことができます。
- 余裕のある学年層により、課外活動を行いやすくなることで、学生生活の充実に繋がります。

### 2. 変更対象

大学・大学院の全ての授業が対象となります。

### 3. 変更時期

2026(令和8)年度前期から開始

### 4. 変更概要

	変更後	現行
1コマの授業時間	100分	90分
授業期間	半期14週/通年28週	半期15週/通年30週

### (2) 授業時間割

	変更後	現行
1限	8:40～10:20	8:50～10:20
2限	10:30～12:10	10:30～12:00
昼休み	50分	60分
3限	13:00～14:40	13:00～14:30
4限	14:50～16:30	14:40～16:10
5限	16:40～18:20	16:20～17:50
6限	設けなし	18:00～19:30

- (3) Intensive Englishについて  
上記の授業時間変更に伴い、Intensive English 1～8は、現行の1コマ(E1～E4) 45分×週2回実施から、他の科目と同様に1コマ100分×週1回実施に変更となります。



Research introduction

### 数学における研究の進め方の一例

専門外の方にとっては「数学の研究って何をやるの?どのように進めるの?」と疑問に思われるかもしれません。そこで今回は、数学における研究の進め方の一例をご紹介します。

#### 1) 先行研究を参考に問題・課題を見つける

私の専門分野である解析的整数論では、様々な多重ゼータ関数が知られています。古典的なものの一つとしてEuler-Zagier型多重ゼータ関数と呼ばれるものがあり、その正の整数点での値を多重ゼータ値と呼びます(写真1)。そして、多重ゼータ値の間には「和公式」と呼ばれる関係が成り立つことが知られています(これが先行研究です)(写真1)。

● 多重ゼータ値の定義  

$$\zeta(k_1, k_2, \dots, k_r) := \sum_{n_1=1}^{\infty} \sum_{n_2=1}^{\infty} \dots \sum_{n_r=1}^{\infty} \frac{1}{n_1^{k_1} n_2^{k_2} \dots n_r^{k_r} (n_1 + n_2 + \dots + n_r)^k}$$

● 和公式(r=2の場合)  

$$S(k) = \sum_{\substack{k_1+k_2=k \\ k_1 \geq 1, k_2 \geq 1}} \zeta(k_1, k_2) \text{ とおくと } S(k) \text{ が成り立つ。}$$

● A<sub>2</sub>型のルート系のゼータ値の定義  

$$\zeta(k_1, k_2, k_3; A_2) = \sum_{m=1}^{\infty} \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{m^{k_1} n^{k_2} (m+n)^{k_3}}$$

▲(写真1)

別の多重ゼータ関数として、近年導入されたルート系のゼータ関数と呼ばれるものがあります。ルート系のゼータ関数の正の整数点での値のことをルート系のゼータ値と呼ぶことにすれば「ルート系のゼータ値に対して、和公式のような関係は成り立つのか?」という疑問が自然と生じます(これが問題・課題です)。

#### 2) 予想式を立てる

今回はA<sub>2</sub>型のルート系のゼータ値に焦点を当てます(写真1)。パソコンでPARI/GPというソフトを用いて近似値による数値計算を行うと、写真2にある結果が得られます。この結果から、赤い数字が3,4,5,6と変化すると、青い数字は2,3,4,5と変化していることが読

$$S_{A_2}(k) = \sum_{\substack{k_1+k_2+k_3=k \\ k_1, k_2, k_3 \geq 1}} \zeta(k_1, k_2, k_3; A_2) \text{ とおくと}$$

● 数値計算で得られた結果 ● 予想式

$S_{A_2}(3) = 2\zeta(3)$   $S_{A_2}(4) = 3\zeta(4)$   $S_{A_2}(5) = 4\zeta(5)$   $S_{A_2}(6) = 5\zeta(6)$

● 予想式 ● が成り立ちそう。

▲(写真2)



人間形成教育センター 門田 慎也 講師

専門 | 解析的整数論

み取れます。これを踏まえると、写真2にある予想式が立てられます。

#### 3) 予想式が正しいことを証明する

自分が知っている手法だけで証明できる場合もありますが、いろいろな文献を調べて様々な手法を試みることもあります。

予想式が正しいことを証明できたとしても、論文としてすぐに投稿できません。その式にどのような意味や応用があるのか、など価値を考える必要があります。また、時には、ほかの研究者がすでに論文として発表していた、なんてこともあります。研究は、うまくいかないこともあります。だって、好きなことですから。

### ESSAY 学生の挑戦に関わる仕事

経営学部 中島智子 准教授 専門分野: 経営組織論・人的資源管理論・組織行動論



「私の専門は経営学です。大学職員を経て、大学教員としては4年目です。」と自己紹介をすると、「職員から先生に?珍しいキャリアですね!」と大半の方が驚かれます。確かに珍しいと思います。私も職員として働き始めた頃は、自分が教員になるとは微塵も思っていませんでした。就職活動の時には、大学生の身近な存在であり、教育関係の仕事である「大学職員」を選びました。今思えば、視野がせまく企業のことは全く知りませんでした。

そんな私にとって幸運だったのは、配属先がキャリアセンターだったことです。世の中にはたくさんの仕事があることを知りました。また、人事の方や、社会人として活躍する卒業生と交流する中で、人のマネジメントを軽視する組織は、結果的に組織の発展も望めないということを実感しました。さらに、在職中にMBA(経営学修士)課程に通ったことで、経営学の知見に基づいてキャリア支援を充実させたいと思うようになりました。働きながら博士後期課程に進み、若年層の早期離職について研究していた所、色々なご縁で今に至りました。

今は、「経営学入門」や「経営組織論」の授業を通して、受講生が「なぜ働くのか」「どのような組織で働きたいのか」といった今後のキャリアについて考えを深めることを目標にしています。キャリアセンターで職務に携わっていた頃には、問題意識は持っていたものの、明確に言語化できていなかった様々な知見について、学生に伝えることに喜びを感じています。大学は、社会という人生の次のステージへと挑戦する場所です。学生の挑戦を身近に感じることができる日々感謝しています。

今、「経営学入門」や「経営組織論」の授業を通して、受講生が「なぜ働くのか」

## 国際交流プログラム

本学では、海外大学との交流協定に基づき、様々な学生交流プログラムを実施しています。海外の学生との交流や歴史・文化体験は、語学力や国際感覚を磨くだけでなく、視野の広がりや自己成長のきっかけとなっています。

詳しくはこちら!



### 本学の国際交流プログラムを紹介します!

本学で実施している国際交流プログラムと、参加する際の一般的なスケジュールについて紹介します。

#### 語学研修プログラム(短期間で集中的に語学研修や文化体験等ができる研修)

(夏休み…ドイツ、アメリカ、韓国、中国 / 春休み…オーストラリア、カナダ、マレーシア)



留学は興味があるけど英語力に自信がない...

留学について詳しく話を聞いてみたい。

事前説明会や個別カウンセリング、英語学習相談など、留学が初めての人でも安心して参加できるよう、留学中のケアを含めたサポートも行っています。海外語学研修に参加した学生からは、

「学びと交流の両面で、今までの人生で最も記憶に残る時間となった。」

「留学中は授業や交流を通じて多くの時間を共有し、言語や文化の違いを超えて強い友情を築くことができた。学びだけでなく、自分の人生を豊かにしてくれる大切なものだと思う。」

「留学を通じて、知識は行動に移してこそ意味を持つということを痛感した。」

など、海外での経験が今後の学生生活を充実させるだけでなく、自分自身の成長にもつながる体験になったといった感想も寄せられています。

少しでも興味のある方、まずは、お気軽に国際交流センターにご相談ください!

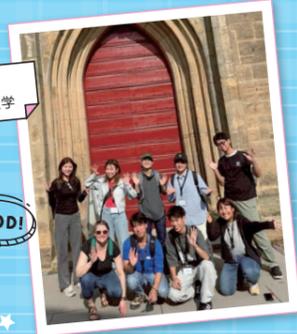
実際に海外語学研修等に参加した学生達の留学先での様子を紹介します!



Deutschland / Universität Kassel



ドイツ / カッセル大学



Australia / Southern Cross University

オーストラリア / サザンクロス大学

HELLO!



McPherson, Kansas, United States / Central Christian College of Kansas



アメリカ / セントラル・クリスチャン・カレッジ・オブ・カンザス



# 就職支援 2025年度 就職結果速報 (内定者インタビュー)

## クラブ&サークル活動・資格取得



**内定**

一般財団法人  
化学物質評価研究機構

環境学部  
やました  
山下 ひなたさん  
(石川県出身)

**内定**

株式会社みずほ銀行

経営学部  
わかまつ しげひこ  
若松 薫彦さん  
(香川県出身)

### Q 内定先の仕事に興味を持ったきっかけは何ですか？

もともとは生物が好きで入学を決めました。幅広い分野を学ぶ中で分析化学に関心を持ちました。研究室で身につけた知識を活かし、自分自身の好きなことをしながら社会貢献に携わりたいと考えたのがきっかけです。

### Q 就職活動を振り返って公立鳥取環境大学、鳥取で学ぶことの良さは？

「環境学部」という幅広い分野だからこそ、多角的な視点を養いながら自分の「好き」を再確認できました。また教員と学生、職員と学生との距離が近いからこそ、研究はもちろん進路に関しても相談に乗っていただきました。個人的にも豊かな自然、落ち着いた環境での学びが性に合っていたと考えています。

### Q 本学の就職支援で役立った制度はありますか？

就職支援センターをよく利用していました。エントリーシート添削から面接練習まで、幅広くサポートしていただきました。特に第一志望の面接に関してはアドバイザーのみなさんに何度も練習に付き合っていたり、大変感謝しています。面接当日も緊張と不安でいっぱいでしたが、練習の成果と励ましを思い出して自身の気持ちを伝えられたと思っています。

### Q 学んだことを今後の仕事にどのように活かしていきたいですか？

身につけた知識経験はもちろん「わからなかったこと」に対して理解できるまで向き合うことで知識を自分のものにしていくことの楽しさを学びました。その楽しさを仕事のモチベーションにしていきたいです。

### Q 本学で楽しかったことを教えてください

3年次は資格取得に励んでいましたが、勉強の合間に友人とご飯に行ったり少し遠出したりして息抜きしたりと、遊びにも全力で取り組むことができました。また研究室で仲間と過ごした2年間も特に思い出に残っています。

### Q 大学時代に学ぶべきこと、体験すべきことは何ですか？

勉学はもちろんのこと遊びやアルバイトなど、様々なことに挑戦できるのが大学生の強みだと思います。鳥取はあたたかい方が多く人と人のつながりが深い地域だと感じていますし、私自身もアルバイト先で出会った地域の方々にお誘いいただいたりおすめいただいたりした場所へ遊びに行くのが楽しみになっていました。ですので、何事にも全力でチャレンジして楽しみを見つけてほしいです。

### Q 内定先の仕事に興味を持ったきっかけは何ですか？

大学で経営学や経済学についての講義を受ける中で、金融を通じて人や企業の挑戦を支える仕事のやりがいと影響力を学んだことがきっかけです。

### Q 就職活動を振り返って公立鳥取環境大学、鳥取で学ぶことの良さは？

幅広い学問をより身近なものとして学べることが良さだと思います。公立鳥取環境大学では、経営学や環境学等幅広い学問を学ぶことができ、近年注目されている環境経営についても理解を深めることができます。さらに、これらを鳥取という地域と結び付けて学ぶことで、地域社会が抱える課題をより身近に感じることができます。こうした学びを就職活動にも活かすことができました。

### Q 本学の就職支援で役立った制度はありますか？

就職活動中は東京や大阪を訪れる機会が多く、宿泊代や交通費の負担がありました。大学の就職支援により一部費用を援助していただけたため、経済的に非常に助かりました。また、個人面談の機会が豊富なこともあり、いつでも悩みを相談しやすい環境だったことは就職活動における精神的な支えになりました。

### Q 学んだことを今後の仕事にどのように活かしていきたいですか？

お客様に信頼していただける銀行員になるために、大学で学んだ経済学や経営学などの知識を土台として、より専門的な知識を積み重ねていきたいと考えています。また、大学で身につけた継続して学習する習慣を、社会人になってからも大切にしていきたいです。

### Q 本学で楽しかったことを教えてください

大学生活の中で最も楽しかった思い出は環謝祭です。サークル活動を通じて日々交流を深めてきたメンバーと、一つの催しを作り上げた経験は非常に貴重なものでした。また、各サークルや団体が様々なイベントを開催しており、フドファイターやスマブラ大会に参加したことが印象に残っています。

### Q 大学時代に学ぶべきこと、体験すべきことは何ですか？

学ぶべきことは、日々の講義です。大学は高校までとは異なり、受動的な姿勢でいると、あっという間に大学生活が終わってしまいます。どうせ受けるのであれば、主体的に学び、得られる知識を最大限吸収して人生の糧にすべきだと考えます。

また、体験すべきことは周囲の人と関わりながら熱中できる何かを見つけることです。周囲と協力して物事を作り上げる経験や、切磋琢磨しながら高め合う経験は非常に貴重です。委員会やサークル、アルバイトなど大学生活には多くの挑戦の機会があります。形に拘らず、大学生活の中で熱中できるものを見つけ、学業と両立しながら打ち込むことが大学生活をより豊かにすると考えます。



## バスケットボール部

私たちバスケットボール部は、週に2、3回練習しています。現在50人程度所属しており、学年関係なく日々の活動やBBQ、環謝祭では、たまにの販売をするなどいろいろな活動をしています。

また、鳥取県の社会人リーグ戦にも出場しており、本年度はサードリーグ優勝で来年以降はセカンドリーグに向けて練習しています。そのほかにも練習試合などを行っています。自分たちで練習内容を考えながら自主性をもって取り組んでいます。

初めての方でも参加しやすい環境なのでぜひ一度お越しください！

部長：宮本 真秀 (経営学部 3年)



## 落語研究会 火曜日

落語研究会火曜日は、2024年に発足したまだ駆け出しの部活です。部名の「火曜日」は、本校の頭文字から取った「TUES」に由来しています。活動日は火曜日とは限りません。

環境大学を盛り上げることはもちろん、地域にまで笑顔の輪を広げたいという思いで活動しています。主な活動内容は、学内でのお笑いライブの開催や、ボランティアとしてネタを披露しに行くことです。漫才を中心に、コントやピンネタ、落語など、お笑いであれば幅広く挑戦しています。また、ネタを披露する演者だけでなく、ステージづくりを支える裏方も在籍しています。現在は演者が漫才コンビ2組と少人数ですが、今後は賞レースや大学お笑いの大会にも挑戦していく予定です。

ぜひ一度、私たちのライブに足を運び、楽しい時間を過ごしてください。

部長：上月 寧々 (環境学部 2年)

## 資格取得 将来の進路を見据え、主体的に資格取得に挑戦する学生の声を紹介します。

経営学部 3年

高橋 楓翔さん  
(愛媛県出身)

- 日商簿記検定2級
- 一種外務員資格
- 3級ファイナンシャル・プランニング技能士

合格!



合格!

経営学部 3年

渡邊 改さん (福井県出身)

- 日商簿記検定2級
- 2級ファイナンシャル・プランニング技能士
- 宅地建物取引士検定

就職後に活かせる金融知識の獲得と就職活動において有利に立ち回るために資格取得に尽力しました。

資格取得は自身の興味ある分野の専門知識を深めたり、授業外の学習に対しても能動的に行動したりするきっかけにもなります。主体的な学習態度で自分の身につけた資格にチャレンジすることをお勧めします。

### ゼミ指導教員からのコメント

経営学部 下境 芳典 准教授

人々が住み、経済活動をするには土地や建物、金融事業者が必要です。つまり資格取得者は「ふわっとした」地域貢献ではなく、具体的に地域に貢献できる人材と言えます。この二人は、日本中どこへ行っても周囲からそう思ってもらえる「資格」を得ました。将来に期待します!



## 合同説明会を行いました!



2025年12月13日、2027年春に卒業する学生(現学部3年生・院1年生)を対象とした「合同業界セミナー」を開催、119名の学生が参加しました。

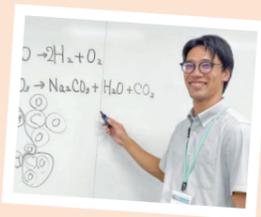
今回は、県内外からIT、金融業や製造業など30社を本学にお招きし、学生が希望する企業ブースを訪れ、企業担当者から企業概要や業務内容等の説明を受けました。

## 卒業生からのメッセージ

環境学部 橘 京佑さん  
2023年度卒業生 (愛知県出身)

### 鳥取市立東中学校勤務

私は環境学部を卒業し、中学校の理科教員になりました。環境学部の授業で身につけた専門的な知識は理科教員をする上で非常に助けになっています。また、ゼミ活動では物事を多角的にみる力を養うことができました。皆さんは学業以外にもサークル活動や様々なイベントに参加することで大学でしかできないことを沢山経験してください。最後に、私の座右の銘を紹介します。「粉骨砕身」です。皆さんが自分の持っている力を出し切れるよう応援しています。





Pick Up ゼミ紹介



環謝祭



表彰・採択関係

### Pick Up! 竹内ゼミ (担当教員/経営学部 准教授 竹内由佳)



Q.ゼミ生の雰囲気はひとりで表現すると?

毎年、教員がまとめきれず振り回されるほど、メンバーの個性が爆発しています。

#### 〈ゼミで行っていること〉

マーケティングの力で社会を変えるということをテーマとしています。ポイントは、「良いこと」をしないこと。「良いことだから買ってもらう」ではなく、「良いものだから買いたい!」を作る」が目標です。

2025年は、それまでの企画・調査内容を踏まえた上で、株式会社サンマート様と共に、わんぱくおにぎり(おかずとごはんが一緒に取れるおにぎり)やシカじゃぶ丼(鳥取東部の郷土料理とジビエのコラボ丼)の企画・販売に取り組みました。また、消費者市民まつりに協力し、プログラムの企画、実行を担いました。企業への連絡や話し合いの

セッティングも含め、実行するのは学生です。とにかく忙しいのに、よく時間を作り出して、比較的計画に取り組んでいるなあと感じます。



▲サンマートでの店頭販売の様子

#### 〈卒業論文について〉

卒業論文のテーマは、マーケティングや消費者行動、流通が絡んでいるものであればなんでもOK!例えば、「裏原宿のブランドってどんなマーケティングをしていたの?」とか「AIが広告キャラクターだと、買ってもらえなくなる?」のような問いを自ら立て、論文の作法に則り、論理的に、問いに自分なりの解釈や答えを出していきます(これがとても難しい)。イベントを企画し、実行すること、問いへの解釈や答えを導くこと、これは繋がっていないようで、繋がっています。もっと言えば、普段生活している中で何気ないニュースや映画、SNSの記事、読んでいた本、講義の中身、思いついたことなどをきっかけとして、問いは立てることはできます。自分なりの問い、自分なりの視点からの解釈、自分なりの答えを出せるように、これからいろんな経験をしながら、すくすく育ってくれるといいなと感じています。

#### 〈ゼミに対して思うこと〉

個性的な学生さんのおかげで、日々何かあり、とても楽しいです。必ず年始に新3年生含んだ全メンバーでのクリスマス会を実行したり、旅先である学生さんが間違えて両替した千円札80枚をゼミ生内で1万円札でもう一度両替してあげたり...こんなゼミの皆さんが私は大好きです!

ゼミ内で両替



## 環謝祭

### 第25回環謝祭を開催しました

2025年10月11日、12日に本学で第25回公立鳥取環境大学大学祭「環謝祭」を開催いたしました。今年度のテーマ「想造CREATE～記憶に刻まれる一瞬を形に～」を掲げ、学生たちが多種多様なブースや企画を立ち上げて会場を盛り上げました。2日間で1,848名と、昨年度よりも多くの方々に来場いただき、委員のみならず運営に携わった参加者全員に活気と笑顔があふれる環謝祭となりました。

#### — 学生メッセージ —

第25回環謝祭へご参加いただき、誠にありがとうございました!今年も楽しい委員企画に加えてたくさんの模擬店・フリーマーケットを出店していただき、大いに盛り上げることができました。委員含め運営に協力していただいた

方々には感謝がありません。来年度はさらに良いものになるよう、応援とご期待のほどよろしくお願いいたします!

大学祭実行委員会  
山本 彩耶 委員長



大学祭実行委員会メンバーで円陣



ゲスト(the engy)によるスペシャルライブ

## 学生受賞

### 第33回地球環境シンポジウムで優秀ポスター賞を受賞

環境学部4年 外園さん(戸苅ゼミ所属)が、第33回地球環境シンポジウム(2025年9月24日～26日)において優秀ポスター賞を受賞しました。同シンポジウムは、土木学会地球環境委員会が主催し、気候変動や生物多様性の損失など、地球規模の環境課題の解決に向けた研究成果が発表される場です。今回は、49組が研究成果を発表しました。

#### 発表名: 鶏糞を基質としたメタン発酵へのホテイアオイ添加の影響

受賞者 環境学部 4年 外園 真都さん(戸苅ゼミ所属)



この度、「地球環境シンポジウム優秀ポスター賞」を受賞し、大変光栄に思います。初めて学会で発表したので緊張しましたが、研究に興味を持ってくださった方々と活発な議論でき、多くの質問やご意見をいただき、知見を深めることができました。この経験を卒業論文、さらに大学院での研究に活かし、探求を深めていきたいです。

### 第27回IEEE広島支部学生シンポジウムにて HISS優秀プレゼンテーション賞を受賞

経営学部 4年 岩本さん(堀ゼミ所属)が、第27回IEEE広島支部学生シンポジウム(2025年11月8日～9日)においてHISS 優秀プレゼンテーション賞を受賞しました。同賞は、当日に行われたテクニカルプレゼンテーションの中から、特に優れた発表を行った学生に贈られるもので、100件を超える発表の中から選出されました。

#### 発表名: AR技術を活用したリアルタイム分散避難誘導システムの開発

受賞者 経営学部 4年 岩本 旺真さん(堀ゼミ所属)



この度、「HISS 優秀プレゼンテーション賞」を受賞でき、大変光栄に思います。ARを用いた分散型避難誘導という新しい試みに対して、多くの方が興味を示し、さまざまな視点から意見をいただいたことがとても励みになりました。自分では気づかなかった課題や可能性にも気づくことができ、研究をさらに深める大きなきっかけとなりました。

大学のニュースをこちらからもご覧いただけます

TUESレポート

随時更新中!



大学

大学の日々を  
ゆるっと発信中



## 2025年度後期の出来事をご紹介します

### 学生が企画! 小学生と一緒にビオトープ 観察会を開催しました

9月19日と26日、学生グループ「TUES地球環境を考える会びおとぶ」が、若葉台小学校4年生約30人を対象にビオトープ観察会を企画・実施しました。19日は外来生物と生態系保全についてクイズを交えた授業を行い、26日は本学のビオトープで生物採集体験を実施。児童たちからは、自然と触れ合う楽しさや自然を守りたいという声が聞かれ、学生にとっても成果を実感できる機会となりました。同団体は、取組の継続・発展に向けて、さらなる展開を検討しています。



▲詳細



▲タモ網を使ってビオトープに生息している生物を採取

### 本学学生が「鳥取市地方創生 ストリートミーティング」に 参加しました

10月22日、「鳥取市地方創生ストリートミーティング(働く女性・大学生編)」に、大橋ころろさん(環境学部4年)、石川舞依さん(経営学部2年)が参加し、深澤鳥取市長と意見交換を行いました。「遊べる場所の少なさ」「戻りたくなる魅力づくり」「発信力の強化」など、学生ならではの視点で活発に議論が交わされ、市長からは今後の施策に生かしたいとのコメントがありました。

本学は今後も学生・教職員が連携し、地域活性化の取り組みを進めていきます。



▲詳細



▲深澤鳥取市長(中央)と参加メンバー

### 八頭町男女共同参画 推進会議と学生が 意見交換会を行いました

11月25日、「社会経済と人口」(担当:経営学部 西村教子教授)の授業で、八頭町男女共同参画推進会議の方々をお招きし、本学学生の意見交換会を実施しました。

ジェンダーギャップ指数について確認した後、「人口減少時代の若者の生き方を考える」をテーマに、性別・世代の異なるメンバーで討議を実施。活発な議論が交わされ、グループごとの発表も行われました。授業後には記念撮影を行うグループの姿も。多様な視点を共有することで、学びを一層深める機会となりました。



▲意見交換会の様子

キャンパスニュース

### 同窓会からのお知らせ

#### 鳥取環境大学同窓会 20周年記念事業を行いました



10月12日に鳥取環境大学同窓会20周年記念事業を行いました。小林学長、徳田准教授の記念講演には76名の参加がありました。鳥取環境大学同窓会を引き続きよろしくお願いたします。

同窓会情報はこちら



### 鳥取県版COP「COP TOTTORI 2025」を開催しました

12月20日、鳥取県、本学、鳥取県地球温暖化防止活動推進センターの共催により、本学を会場として鳥取県版COP「COP TOTTORI 2025」を開催しました。

平井鳥取県知事と学生による元気な開会宣言の後、朝のニュースでおなじみの気象予報士・くぼてんき氏による基調講演や、パネルディスカッションなどが行われました。

講演では、身近な気象の話題を通して気候変動への理解を深めました。続くパネルディスカッションでは、本学学長や学生EMS委員も登壇し、行動につなげるためのヒントについて議論が交わされました。その他にも各種団体による活動発表やワークショップ、企業ブース展示なども行われ、来場者が楽しみながら脱炭素への理解を深める機会となりました。



▲平井鳥取県知事と一緒に開会宣言 ▲くぼてんき氏による基調講演 ▲フィンランド報告会

### 編集チームからのひと言

### 自分なりの挑戦!

最近、裁縫に挑戦しています。先日はミシンを使いコップ袋を作りました。思うように進まないこともありましたが、完成したときの達成感は格別で、次は何を作ろうかと考えるのも楽しいです。

Tsさん

最近の挑戦は、日常に運動を取り入れることです。最近、日頃の運動不足がたたって、過出をした次の日のひどい筋肉痛に悩んでいます。まずは、週に何回カラジョ体操をすることから始めています。

Nさん

鳥取県立図書館の「鳥取方式」に感銘を受けて、昨年から書籍は地域の書店で買っています。時間もかかりますが、その分、待つ楽しみができ、心の余裕もできたような気がします。

Oさん

全国の鉱物展示をしている博物館巡りをしたいと目論んでいます。まずは新潟県のフォッサマグナミュージアムからと思っています。他にもお薦めの博物館をご存じでしたら教えてください。それに、今年こそは大物のチヌを釣り上げたいです…!!

Sさん

最近は物欲と向き合っています。オンラインショッピングと距離を置き、アプリを探しにくしたり、一旦カードで寝かせてみたり、揺れる心を日々抑えています。

Ttさん

詳しくは各お問い合わせ先へご連絡ください

公開講座



公開講座

本学では一般の方を対象とした公開講座を実施しています。オンデマンド動画配信もありますので、ぜひご視聴ください。(動画は随時更新中)

また、令和7年度は、リカレント教育の充実を図り、昨年に引き続きAI・数理・データサイエンスの基本的な活用法に関する講座を、コース形式で実施しました。今後も、引き続き魅力的なテーマでの公開講座の実施に努めて参ります。

● 講座情報や動画視聴はこちら

公立鳥取環境大学 公開講座



<https://www.kankyo-u.ac.jp/about/alliance/seminar/>

● お問い合わせ 研究交流推進課

TEL 0857-38-6704 E-mail event@kankyo-u.ac.jp

KANラジ 動画配信中

環境大から、あなたへ!

知識は宝だ! 環境大の気軽に学べるラジオ

KANラジ

KANラジとは?

本学の教員が自身の専門分野や研究についてラジオパーソナリティとトークを展開する、気軽に学べるラジオ番組です。

FM鳥取で放送されたKANラジの収録風景を本学公式YouTubeチャンネルからご覧いただけます。

本学教員の、普段なかなか聞かない話をぜひご視聴ください!

第9回「農業と経済」経営学部 山口 和宏 准教授  
第10回「下水汚泥からエネルギーを創る。メタン発酵処理とは?」環境学部 戸田 文仁 准教授

KANラジ再生リスト



寄付金のお願い

〈公立鳥取環境大学基金〉

学生の修学・生活の援助や教育活動の支援及び教育研究施設・設備等の整備に活用します。

● 詳細はこちら

<https://www.kankyo-u.ac.jp/about/donation/>



〈ふるさと納税〉

令和7年2月よりふるさと納税を活用した大学への取組みに対する支援ができるようになりました。

● 詳細はこちら

<https://soko.rms.rakuten.co.jp/f312011-tottori/9002/>



● お問い合わせ 総務課財務係

TEL 0857-38-6705 E-mail zaimu@kankyo-u.ac.jp

2025年度 学部・大学院 学位授与式

2025年度公立鳥取環境大学 学部・大学院学位授与式を左記の通り執り行います。詳細はホームページでお知らせしておりますので、ご確認の上、ご出席ください。

【日時】2026年3月19日(木)  
10:00 / 開 式  
(9:30受付開始 / 12:30終了予定)  
【会場】とりぎん文化会館梨花ホール  
(鳥取県鳥取市尚徳町101-5)

〈お問い合わせ先〉  
公立鳥取環境大学総務課  
TEL:0857-38-6700

2026年度 前期開始日程

- フレッシュャーズセミナー・前期ガイダンス：4月3日(金)～7日(火)
- 履修登録期間：4月3日(金)～7日(火) ※履修変更期間：4月8日(水)～14日(火)
- 授業開始：4月8日(水)

授業料の納入について

授業料の納入期限は、前期：5月31日、後期：11月30日です。納入期限の概ね1か月前に納付書を送付いたしますので、よろしくお願いします。

決算報告

令和6年度の決算の概要は次のとおりです。詳しくは大学のホームページでご確認ください。

[https://www.kankyo-u.ac.jp/about/announcement/report\\_since2012/](https://www.kankyo-u.ac.jp/about/announcement/report_since2012/)

※セルが黄色の箇所は端数調整をしています。

損益計算書

収 益		
項目	金額(円)	割合(%)
● 運営費交付金収益	1,004,451,146	51.4%
● 入学金収益	88,454,000	4.5%
● 授業料収益	686,656,800	35.2%
● 検定料収益	22,487,000	1.2%
● 受託・共同研究・受託事業等収益	13,635,652	0.7%
● 補助金等収益	97,336,446	5.0%
● 施設費収益	624,126	0.1%
● 寄附金収益	16,118,968	0.8%
● 財務収益	2,181,254	0.1%
● 雑益	20,571,963	1.0%
合計	1,952,517,355	100%

収 益

大学の収益は主に、設立団体(鳥取県及び鳥取市)からの運営費交付金(51.4%)と学生からの入学金及び授業料の納付金(39.7%)です。

費 用

費 用		
項目	金額(円)	割合(%)
● 教育経費	334,062,675	17.1%
● 研究経費	89,315,629	4.6%
● 教育研究支援経費	99,279,593	5.1%
● 受託・共同研究・受託事業費	15,317,800	0.8%
● 人件費	1,157,907,253	59.3%
● 一般管理費	120,106,777	6.1%
● 雑損	37	0.0%
● 臨時損失	668,983	0.0%
● 当期総利益	135,858,608	7.0%
合計	1,952,517,355	100%

費 用

大学の費用は主に、教育経費(17.1%)、研究経費(4.6%)・教育研究支援経費(5.1%)、役員・教職員の人件費(59.3%)、一般管理費(6.1%)です。臨時損失はすべて固定資産の除却損です。

貸借対照表

資 産		
項目	金額(円)	割合(%)
● 土地	3,514,650,000	35.9%
● 建物、構築物、 工具器具備品他	4,642,992,715	47.4%
● 図書	424,744,388	4.3%
● その他有形固定資産	70,484,076	0.7%
● 無形固定資産	15,554,654	0.2%
● 有価証券等	99,887,950	1.0%
● 現預金	921,405,772	9.4%
● 未収入金等	107,724,345	1.1%
合計	9,797,443,900	100%

資 産

大学の保有する資産はその大部分が土地・建物等(83.3%)です。また、その他の主な資産として有価証券・現預金等(10.4%)、図書(4.3%)となります。

負債・純資産

負債・純資産		
項目	金額(円)	割合(%)
● 固定負債	92,093,219	0.9%
● 流動負債	435,117,318	4.5%
● 資本金	8,336,830,000	85.1%
● 資本剰余金	△476,809,285	△4.9%
● 利益剰余金	1,410,212,648	14.4%
合計	9,797,443,900	100%

負債・純資産

資本金は設立団体からの出資金(鳥取県50%、鳥取市50%)です。また、固定負債は全て長期繰延補助金となります。現在建物のZEB化を進める脱炭素補助金事業に取り組んでいるため、これに伴い長期繰延補助金が増加しています。

※長期繰延補助金：補助金により固定資産を取得した場合に、当該固定科目に振り替え、当該資産が費用化(減価償却)される時点において補助金収益等として収益化する会計処理のための勘定です。

お知らせや  
ニュースを発信中!

公立鳥取環境大学 公式SNS



@kankyo\_U  
(旧ツイッター)



@kankyo-u



公立鳥取環境大学  
公式チャンネル



NEW!

読者アンケート

本号の感想を  
ぜひお寄せください。

